カキにおけるカキノヒメヨコバイの被害対策

５月の連休を過ぎた頃から、庭先のカキの葉がちりちりと巻き上がって、茶色く変化する症状が見られます。

この症状を見て、「カキの木が病気になった」と思われる方が多いようですが、これは病気ではなく、カキノヒメヨコバイという新しい害虫による被害です。

カキノヒメヨコバイは伸長中の柔らかい枝葉を吸汁するため、被害を受けたカキの枝は短くなり、葉はちぢれて茶色くなり、花は咲くことができなくなります。

カキノヒメヨコバイは、ツツジなどの常緑植物で越冬し、４月上旬頃からカキなどに移動して増殖します。

防除対策は、殺虫剤を散布することです。カキノヒメヨコバイの成虫がカキに移動する４月上～中旬頃に１回目、それから幼虫が発生する ５ 月上～中旬に２回目、幼虫の発生が多い場合には６月上～中旬に３回目の防除を実施します。

カキノヒメヨコバイには、オルトラン水和剤とモスピラン水溶剤等を散布します。なお、モスピラン水溶剤は劇物に指定されていますので、一般の方には普通物のオルトラン水和剤がお勧めです。ただし、オルトラン水和剤は１年間に２回までしか散布できないので、もし、３回散布する場合は、１回は別の薬剤を散布することになります。

また、一度茶色くなった葉が緑になることはありませんので、去年までに被害を受けたことのあるカキでは、必ず４月から薬剤を散布してください。